

## ◆ 今週のコメント

- ・ アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が2例(50歳代男性, 60歳代男性)あります。いずれも感染地域は国内で, 推定感染経路は不明です。本年の累積報告数は, 19例となっています。
- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が1例(男性, 60歳代)あります。症状は, ショック・腎不全・DIC・軟部組織炎・中枢神経症状です。感染地域は国内で, 推定感染経路は創傷感染です。本年の累積報告数は4例で, 平成20年(0例), 平成21年(1例), 平成22年(2例)に比べ多くなっています。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は, 0.28(11例)で, 先週(0.44)に比べやや減少していますが, 依然として過去5年平均値を上回る状態が続いています。引き続き今後の動向に御注意ください。

## ◆ 今週のトピックス: &lt;水痘&gt;

水痘の定点当たり報告数は, 0.97(38例)で, 先週(1.03)に比べやや減少しています。しかし, 依然として過去5年平均値を上回る状態が続いています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

## 全数把握の感染症

- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 2例【1月以降の累積報告数 19例】
- ・ 五類: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例(第44週追加)【1月以降の累積報告数 4例】

## 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点66, 小児科定点39, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.05	3
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.82	71
	② 水痘	0.97	38
	③ 手足口病	0.95	37
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.46	18
	⑤ RSウイルス感染症	0.28	11
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

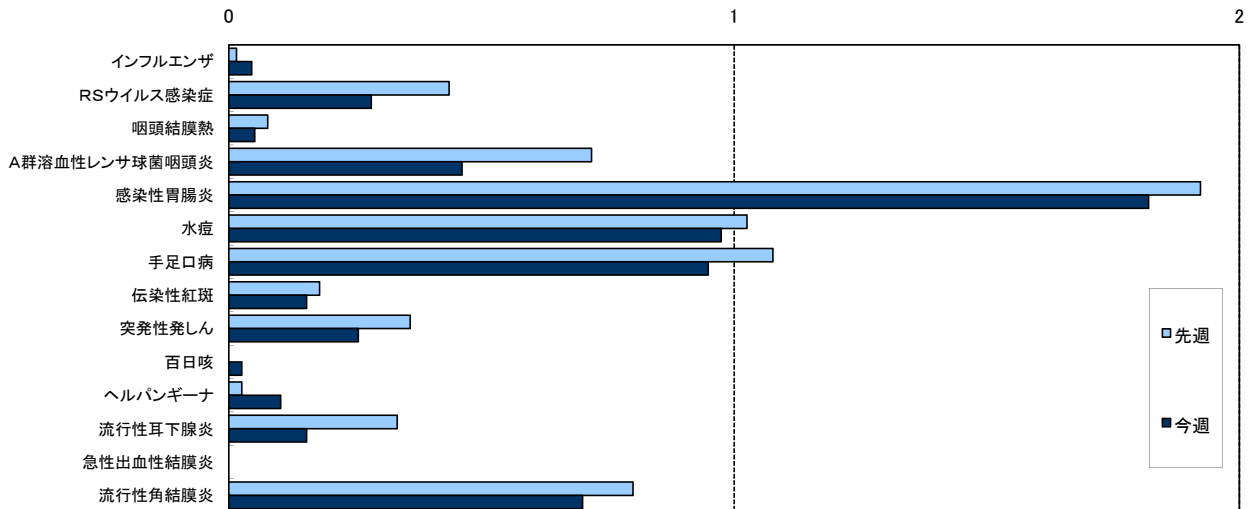
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <水痘>

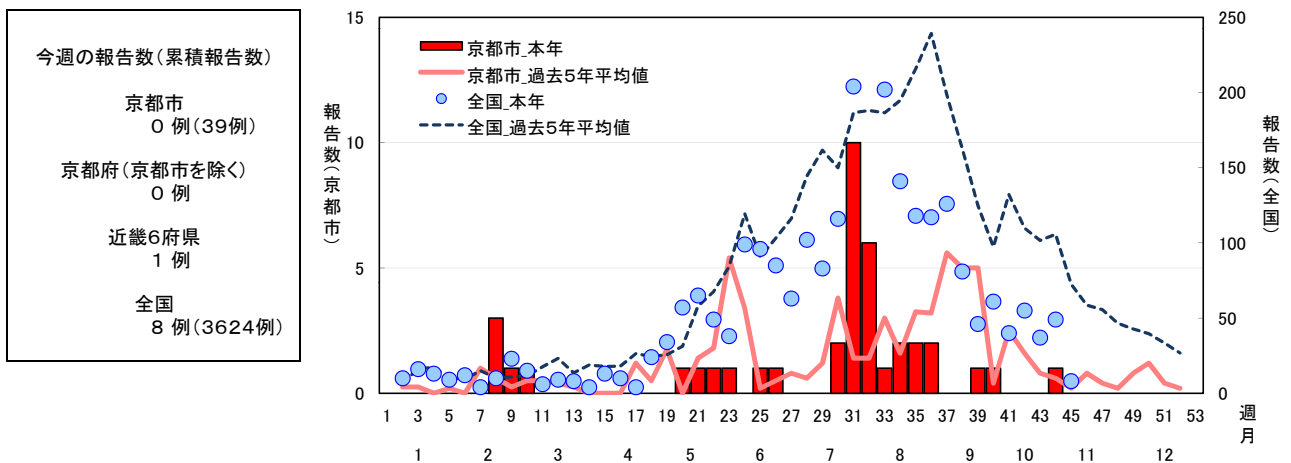
(注) 京都市のデータは, 平成23年11月17日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第45週)と先週(第44週)の定点当たり報告数の比較

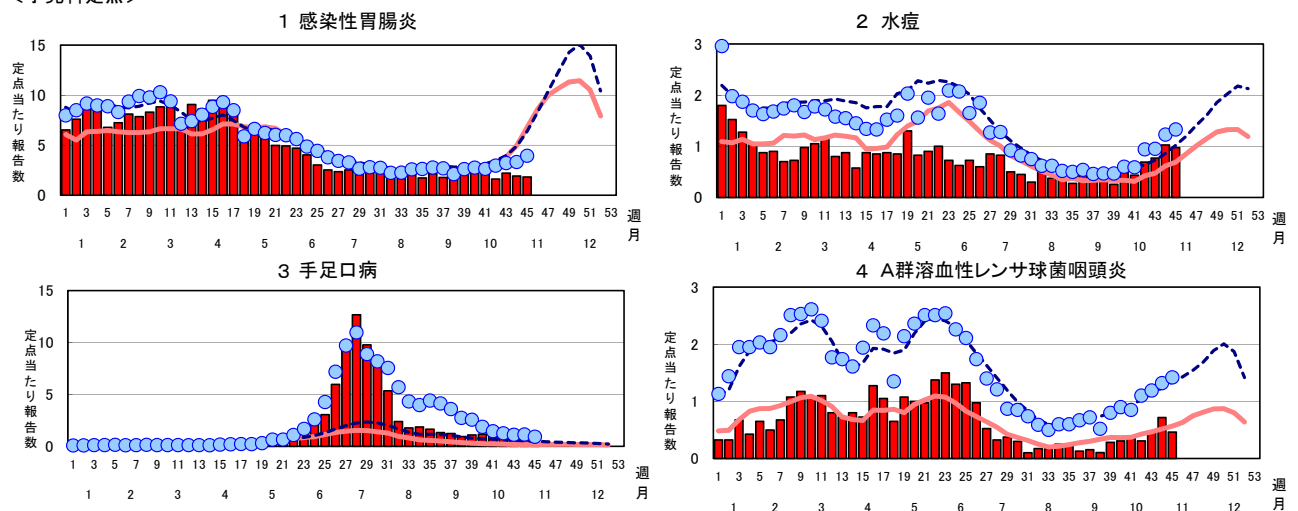


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

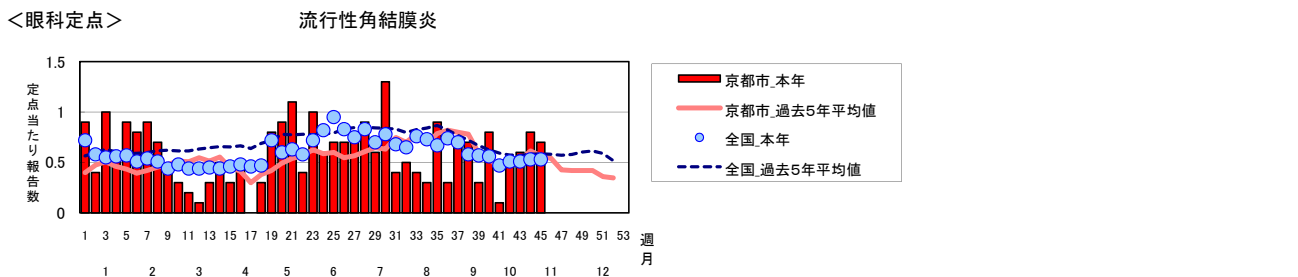


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



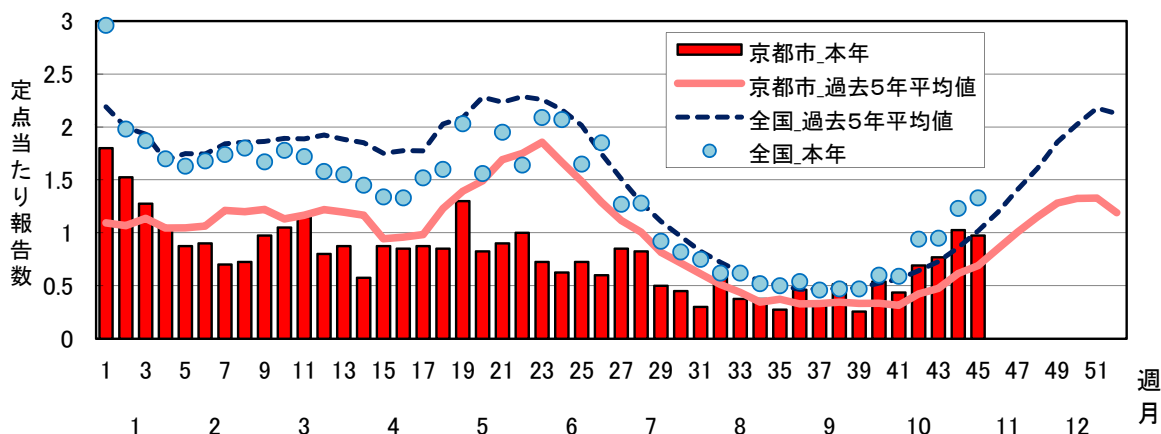
## 第45週(11月7日～11月13日)トピックス: <水痘>

水痘の定点当たり報告数は、0.97(38例)で、先週(1.03)に比べやや減少しています。しかし、依然として過去5年平均値を上回る状態が続いています。例年、冬にかけて報告数が増加しますので、今後の動向に御注意ください。

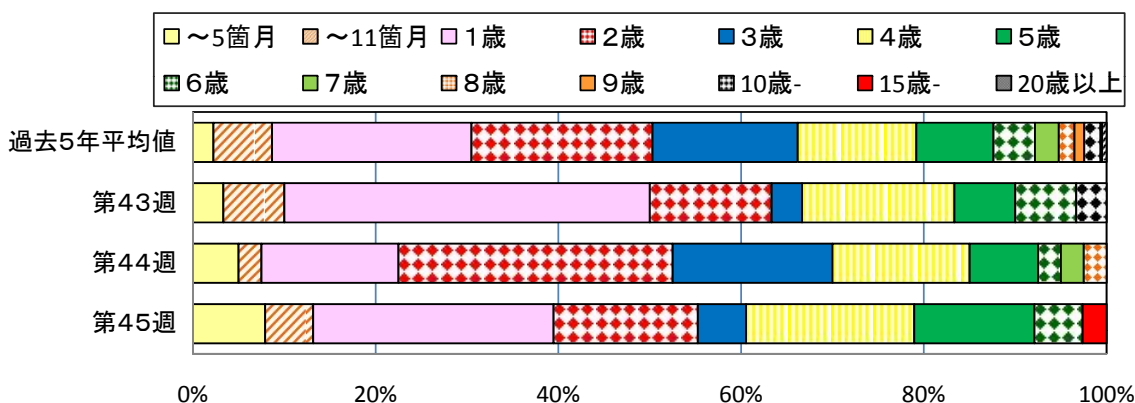
年齢階級別では、0歳～6歳、15歳～19歳で報告があり、1歳が10例(26.3%)と最も多く、次いで4歳 7例(18.4%)、2歳 6例(15.8%)の順となっています。なお、15歳～19歳の報告が1例あります。

行政区別では、11行政区のうち10行政区(右京区を除く)で報告があります。

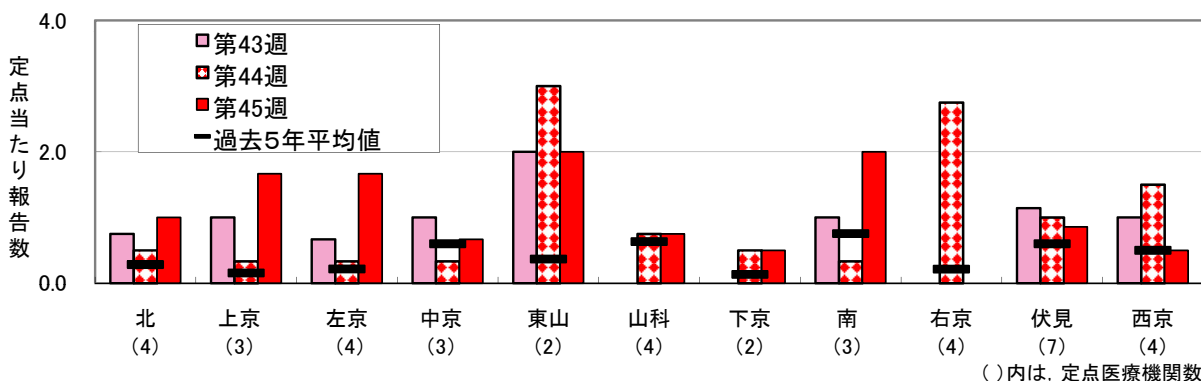
本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



( )内は、定点医療機関数